

私はこんな風に使っています！

研究部 育種課

このコーナーでは、「自然農法の種子」を活用いただいている方々に焦点をあて、栽培や種子に対する思い、使用している自然農法品種についてご紹介します。

現在、自然農法センターでは果菜類を中心に20品目65品種の自然農法の種子を頒布しています。交配種、固定種、在来種と多様な品種があるにもかかわらず、アンケート調査の結果、全体の58%の方が自家採種をしています。有機農業や家庭菜園の広がりと共にタネに関心を持つ人が

増えてきているからでしょう。

第5回目となる今回は、栽培から自家採種まで家庭菜園の楽しみを広めるため自然菜園コンサルタントとして活躍している自給自足ライフ代表の竹内孝功^{あつり}さんを訪ね、取り組みや種子に対する思いについて伺いました。

オクラから学んだ

タネの大切さ

家庭菜園のプロとして、菜園講座や著作、雑誌連載など多岐にわたって活躍されている竹内さん。大学時代に読んだ福岡正信氏の「わら一本の革命」がきっかけで農の世界に関心を持ち、自然食品店の店長を経て、自分で育てたいという思いが強まり、関東圏で自然農法や自然農、有機農

業について学んだそうです。その後、自給規模で栽培しながら農家になるか思案していた時、当センターの研修生となり、研修を修了した翌年の2008年から家庭菜園教室を始めました。

タネの大切さを知ったのは東京都日野市で家庭菜園をしていた頃、直播きや粘土団子でさまざまなタネをまいて栽培した結果、1m以上伸びるはずのオクラがわずか15cm程しか育たなかったことからでした。「唯一実まで育ったオクラがありました。枯れた莢を割ってみるとタネがついており、購入した時の種子消毒したカラフルな種子の色ではなく、オクラ本来のタネの色を見て驚きを覚えました。翌年、そのオクラのタネをまくと元気に育ち、1m以上に

なりました。その結果、自然に栽培するには、まくタネから自然であることが大切なのではないかと思うようになりました。」ただし、その2代目のオクラは食べると美味しくなく、ただタネを採るだけでは良くないということも体験しました。

今では、多くの野菜のタネを採種しており、トマトだけでも40種類も自家採種をしています。「実際に自分で育ててみて、育てやすく味のいいものを選び、講座で生徒さんと一緒に育て、その野菜のタネを自家採種する大切さを体験してもらっています。」

竹内さんの菜園教室は、育苗を含む野菜栽培全般から自家採種の方法のほか、水稻栽培も学べる講座内容になっています。その中で自然農法



菜園教室の生徒さんたちの畑
基礎を学び、各自が工夫しながら栽培



↑アイデアが詰まった竹内さんの自然菜園
←竹内さんとお気に入りの「在来青ナス」

種子の品種も活用しており、初めて野菜を育てる生徒さんから美味しい野菜が採れると評判が良いそうです。

竹内さんによれば、当センター育成の交配種は適応性が広いのはもちろん、自家採種しても大きくばらつかず、美味しく、その畑にあった品種に育てることができるのが魅力のことです。

講座の中では、トウモロコシやナタネなどは遺伝子組み換え作物と交雑する恐れがあるため、安易な自家採種は遺伝子組み換え作物を拡げる危険性があることを指摘しています。そのため、野菜の受精方法を知り、品種の特性を維持するためにタネを採る。最終的には、自分の畑にあった野菜を育てていくことが、家庭菜園の究極の楽しみだということです。

ご自身の畑では在来青ナスを長年栽培しており、苗は踏み込み温床の床土をもとにした自家製の育苗培土を使った自家育苗です。やせ地の場合はくらつきを利用して栽培しますが、ほぼ無施肥で敷き草をたっぶり敷いて栽培しています。在来青ナスは草勢が強く育てやすく、そんな在来青ナスがお気に入りです、自家採種歴約10年にもなります。

**家庭菜園を通して
育てる楽しみ、食べる幸せを
感じてほしい**

現在、家庭菜園講座は長野県安曇野市を拠点として活動しています。が、今後は長野市の方に拠点を移し、将来は宿泊を伴った体験型ワークショップを開くことを考えています。

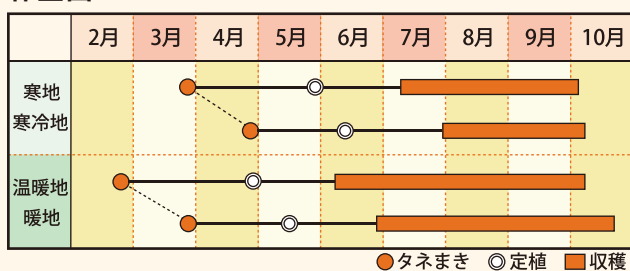
今の世の中は遺伝子組み換え作物や放射能被害など、目に見えない危険が潜む世の中だからこそ、タネを通して自然のありがたさを育てる楽しみ、食べる幸せといった家庭菜園

今号の紹介品種 ナス「在来青ナス」

開帳性の草姿で茎が太くて節間が短く、葉が大きい特徴を持ち、草勢がとても強いので作りやすい品種です。ヘタ・果皮ともに緑色で卵形の果実は果肉が柔らかく、汁の実や煮食に適しています。着果数はやや少ないものの、200～250gの大果で収穫しても硬くなりにくいので家庭菜園でも人気の品種です。



作型図



竹内さんの家庭菜園講座に関する情報はホームページ(<http://39zzlife.jimdo.com/>)に掲載されているほか、著書『これならできる!自然で菜園一耕さず草を生やして共育ち(農山漁村文化協会1,836円(税込))』では、竹内さん実践栽培方法を詳しく紹介しています。



での体験を通して、生きている・生かされている感覚を味わってもらいたい。素直に「家庭菜園は楽しい」ということを分かち合うためにタネから育てているように感じました。
(原田 晃伸)